

非核の政府を求める石川の会 会報

# 非核・いしかわ

故・清水正明医師の広島被爆絵画シリーズ①

冷い乳房



(清水医師の被爆証言は下記の「花鳥風月」を参照)

事務局  
〒920-0848  
金沢市京町 28-8  
石川民医連労働組合 気付  
Tel 076-251-0014  
郵便振替  
00760-0-15689

## 非核 5 項目

- ① 全人類共通の緊急課題として核戦争防止、核兵器廃絶の実現を求める。
- ② 国是とされる非核三原則を厳守する。
- ③ 日本の核戦場化へのすべての措置を阻止する。
- ④ 国家補償による被爆者援護法を制定する。
- ⑤ 原水爆禁止世界大会のこれまでの合意にもとづいて国際連帯を強化する。

## 梶文秋・輪島市長からのメッセージ

この絵画は、故・清水正明氏（元清水医院院長・輪島市杉平町・二〇〇四年死去・享年八七歳）が、被爆者として「語らねばならぬ、書き残さねばならぬ」との思いで描いた一三点の油絵であり、被爆・戦後五〇年を機に、より多くの人に見てもらい、核兵器廃絶の声が一層高まることを願って、一九九五年に輪島市に寄贈いただいたものです。

故・清水氏は当時、爆心地から約三・五キロ離れた兵舎の中にいたため、原子爆弾による熱線や爆風の直撃を免れましたが、一面の焼け野原、水を求める人、大量の遺体、「とにかく原爆が落ちたらこうなる」ということを知ってほしい」と、目の当たりにした惨状を伝え残そうと筆を執られました。

この絵を通して原爆の悲惨さと平和の尊さを後世に伝えていくことが私たちの責務であり、今後も継続的に被爆絵画展を開催していきたいと考えております。

二〇一三年八月五日

輪島市長 梶文秋

## 花鳥風月

輪島市の被爆絵画・証言展（一九九四年）によせて「幾十年もの間、消える事なく、眼（まなこ）の奥に、そして脳の底に焼き付いた生々しい『像』を『記憶絵』として再現しました。あの時の悲惨さ残酷さを少しでも御汲み取り頂ければありがたいと思います」と述べられ、輪島市へ被爆絵画を寄贈された故・清水正明医師。

最終の第三作目『冷い乳房』に、

何も彼もこわれてしまった 遠くでまだ火災が続いている。着物を爆風でむしり取られ、全身火傷で倒れた母親 死に瀕した母親 体は段々冷えてゆく 乳房も冷くなっている。

何も知らずに、乳呑児が、乳房を求めてすがる。この母親に一言いわせたら「この児を頼みます」といったら。この児がもし助けられていたら、今年は五十年 ああの時の「冷い乳房」を覚えているにちがいない。

松江市教育委員会による漫画『はだしのゲン』閲覧制限へ抗議が殺到。制限は撤回されたが、今号からスタートの本紙連載の『広島被爆絵画シリーズ』が史実に学ぶことの大切さを改めて再確認する機会となることを心から願っている。(二)

## 原水爆禁止世界大会・参加印象記

### 世界市民という視点

横山加奈子

今回、石川民医連の代表としてカンパをいただいた原水爆禁止二〇一三世界大会に参加させていただいたことに、深く感謝をします。医師になって、そして民医連職員としては初めての参加だったので、参加前に城北病院の代表メンバーと何度か顔合わせをして、平和への思いを正直に語ったり、原爆をテーマにした映画を見たりして、今この政治、社会情勢の中で原水爆禁止世界大会に参加することを考えてきました。その報告をさせていただきます。

大会一日目ですが、各国の代表団によるスピーチはどれもエネルギーで、世界の市民は核兵器の非人道性を十分に認識しており、その廃絶に向けて運動していることを知ることが、活動に対するモチベーションはぐんと上がりました。今回の世界大会の中で根底に流れているように感じたのが、「人間の視点」で世界市民としてつながる、という考えでした。

もちろんそれぞれの国、地域の政治・経済的事情はあるだろうけど、全員が共感できる・つながる視点というのが「人間の視点」で、その視点にたつことで国家間における武力による抑圧の関係ではなく、信頼に基づく関係を構築できる、という考えです。この視点に立つてこそ、市民運動は力を発揮することを感じました。

運動が遅々として進まないことに落胆しがちではありますが、少しずつ世界の人々の間に反核の思

いが広がっていること、それが権力者にとってあきらかに脅威として働いていることを知り、これからも学び続け少しずつでもいいから運動を広げたい、と気持ちを新たにした初日でした。アメリカの代表の方が、権力者に対しては闘争なしには何も生まれない、とおっしゃっていたのがとても印象的で、闘うこと自体当たり前のことであり、権利なのだ、という認識にも立てました。

二日目の分科会では『非核平和のアジアを』に参加し、より具体的にアジアにおいて非核地帯をどう広げていくかを学びました。「人間の視点」をもつ重要性はここでも強調されていました。特に印象に残ったのは、インド代表のナラヤナ・ラオさんの発言でした。

現在のアジアは軍事的にも経済的にもアメリカの帝国主義の影響を強く受けていて、まずはそこからの脱却が必要。我々の間の問題は我々の中で信頼関係を作って解決をしよう。平和と協力を依って立つ関係を築いていければ、EUのようなアジア連合体として団結できるのではないかと。

ラオさんの構想はとても現実的で、アジアという多彩な文化圏でその国ごとのアイデンティティを尊重することは基本であり、その上でどう連携するかはまずは私たちアジアの国だけで考える場を持つこと、そして連携はとも困難なことではあるだろうけど、人間の視点に立つて共に踏み出すことが重要、とおっしゃっていました。

原発問題を考える際にも同じようなことを感じるので、電気量が足りないから原発は必要なのだ、という考え方はとてもナンセンスで、誰にとつ

ての何が一番優先されるべきかをもっと考える必要があります。そこで重要なのが人間にとってという「人間の視点」で、企業や国にとって重要なことと、人間として重要なことは別であり、この社会で一人の人間としてどう生きていくかが問われているときなのだと感じました。

もちろん安倍さんのように国家、企業、そしてアメリカが大事と訴える人もいるでしょう。でも私はやっぱり一人の人間として、そして医療者として健康を守る立場として、核による健康被害は二度と繰り返してはいけないという立場にたち、生きていきたいと思うのです。

この長崎大会に参加して、改めて生き方を認識し、そして多くの人とそれを話し合いたいと思いました。平和祈念式典での田上長崎市長の言葉はとても心強かったです。そして同時に被爆者の声が聞ける最後の世代としての責任を強く感じました。人間的な幸せを追求し守る立場としてやるべきことは明らかで、それを論理的にそして情熱的に深めていこうと思います。(城北病院研修医一年)

### 世界大会代表派遣募金のお礼と報告

原水爆禁止二〇一三世界大会の代表派遣募金のお礼と報告を前号の会報でいたしました。

その後、三人様から募金をいただき合計で二〇人様七九、五〇〇円のご協力をいただきました。

心よりお礼を申し上げご報告をいたします。

非核の政府を求める石川の会常任世話人会

## オスプレイ訓練基地の岩国で開かれる 日本平和大会を成功させよう

山野健治

一月一五日(金)～一七日(日)、山口県岩国市を中心に「日米軍事同盟打破・基地撤去二〇一三年日本平和大会in岩国」が開催されます。

安倍政権が憲法改悪を進めようとして、九六条の改定を打ち出しましたが、憲法改定論者からさえ「姑息な手段」「邪道」「法治国家としてはどうか」などとひんしゆくを買い、まずは解釈改憲からと「集団的自衛権の行使」を狙い、内閣府法制局長官の首をすげ替えました。

また、沖縄あげての反対にもかかわらずオスプレイを強行配備し、普天間基地の辺野古移転をこり押ししています。さらに米軍はオスプレイの訓練を全

国に広げようとしていますし、ことあるうに政府はオスプレイの陸上自衛隊配備を計画し、調査の予算も計上しようとしています。

安倍首相は、広島、長崎の平和式典では、歴代首相が曲がりなりにも表明してきた戦争の「反省」や「不戦の誓い」も投げ捨て、原発の再稼働、輸出にまへのめりになっています。

今大会は、このような情勢の中、オスプレイ陸揚げ・訓練や米軍機移転、米軍住宅建設で大きな闘いが起こっている岩国で開催されます。岩国の仲間を励まし、全国の闘いや基地をめぐる状況を学ぶ大変よい機会となります。

ぜひ多くの方に参加いただきたいと呼びかけるものです。

主な日程等は次のとおりです。

・一月一五日(金)

一三時より 国際シンポジウム

同 オブショナル基地調査

一八時半より 開会集会

・一月一六日(土)

一〇時より 分科会、シンポジウム、動く分科会(基地調査等)

一八時半より 青年集会や各種交流会

・一月一七日(日)

一〇時より 閉会集会

一時半より 市中パレード

\*石川県代表は一五日開会集会より参加の予定

(石川県平和委員会事務局長)

## 憲法と平和を守る願いを持ち寄り

日本平和大会in岩国へ代表を！  
参加者を募集します！

石川県には日本海側唯一の航空自衛隊戦闘機部隊が所属する小松基地があり、日米共同訓練が随時実施されています。

「自民党の改憲草案」「集団的自衛権」が大きな国民世論になり安倍政権を揺さぶっています。

更に危険なものが、閣議決定し臨時国会に提出を準備している「国家安全保障会議設置関連法案」と次に提出を予定している「特定秘密保護法案」などがあります。これらの法案は国民の知る権利や取材、報道の自由が制限され、民主主義が危ないです。

今年の日本平和大会はこのような情勢の中で「憲法をいかし、平和なアジアをー基地も軍事同盟もない日本へ」をテーマに山口県岩国市で開催されます。非核の政府を求める石川の会は代表を派遣いたします。

参加ご希望の方は事務局までご連絡ください。

非核の政府を求める石川の会常任世話人会



(日本平和大会in岩国・学習パンフレット)

#### 第四回核兵器廃絶国際行動デー

#### 講演要旨「炉は続くよ どこまでも？」(下)

講師：アーサー・ビナード



アーサー・ビナード講演会に320人が参加  
(6月9日、金沢市文化ホール)

広島の上空でつくられたセシウム一三七やストロンチウム九〇はまだ八分の一にもなっていない。広島と長崎で放出された放射性物質は今も生き物を殺し続けています。これは無差別殺人です。核分裂の連鎖反応は、容赦なく永遠に生き物を殺す対処不可能な物質が作られるということであり、大飯三号機と四号機の中では同じことを平気でやっているのです。

私は言葉の力が落ちたのは、正式名称を任せてしまったことに起因すると思っています。政府や企業は利権を保持するため、その意を受けた広告代理店が知恵を絞って言葉を考えています。アベコベ総理の演説もアベコベノミクスも再稼働の理由づけも、全てそのようなのです。

#### 「原子炉」は核分裂反応装置

ですから自分たちの立場につながる言葉を使わないと自殺行為だと言いたいのです。例えば原子炉という言葉ですが、この「炉」というのは売するための商品名なのです。肯定してPRするためのもので

す。英語にはありません。辞書にはヌークリアリアクター (a nuclear reactor 原子炉) となっていますが、リアクターはリアクション (reaction 反応) をする装置だから、「原子炉」は核分裂反応装置です。この言葉は直訳ではないのですが、そこに重要なポイントが隠れているのです。これは五〇年頃にデッチ上げられた商品名なのです。これを私たちがまでもが正式名称として使っているから、核廃絶ができないのです。最初に反応させた時の言葉は pile (積み重ねた山の意味) だったのです。

一九四二年一月二日は初めてプルトニウムをつくる連鎖反応が引き起こされた日です。地球に存在しない、ウランよりもはるかに威力のある大量虐殺の原料になるプルトニウム二三九を人工的に作るためです。ウランは掘り出して、ウラン二三八という全然核分裂しないものを捨てまくって、ウラン鉱石の〇・七%しかない二三五を濃縮して五〇%にしたものをつくり、それが分裂して連鎖反応を起す時に出る中性子を、ゴミとして捨てているようなウラン二三八に当てると、それが中性子を一つ飲み込んでプルトニウム二三九になります。そのプルトニウム二三九が長崎の原爆の原料です。人類初の核兵器使用であるニューメキシコの核も、セミパラチンスクの核も同じ二三九です。その意味ではプルトニウムを作ること自体が核開発であり、それを作るための装置が pile なのです。

#### 本音はプルトニウム製造

その装置が一九四二年にできて、戦争をわざと長引かせて長崎で使ったのです。広島型のウラン二三五の核分裂を使うのは原始的で無駄が多いのです。

馬に喰わせるほど余っているウラン二三八をプルトニウムに作り替えていけば、世界を百年単位で支配できるからです。核開発はそのためにやっているのです。例えば悪いかもしれませんが、広島型は既に古い技術なのです。オレンジ色のパンピング型の模擬爆弾は富山にも大阪にも落とされていますが、実験として落とされたのです。戦争は核開発と世界支配のために長引かせたにすぎないのです。

パイルという言葉が作られてプルトニウムづくりが本格的に始まって、シカゴ・パイルと言われ、それがずっと使われていました。それが五〇年に名前がヌークリアリアクターに変わったのは何故かというところ、米国民に新しいキャンペーンで売り込むためです。でもやっていることは、広島の上空で起こした核分裂であり、ヌークリアリアクターを「発電機」と偽って売ったのです。実際、発電はしていません。でもそのためにしているのではなく、爆発させないために冷やさざるを得ず、どのみち湯は沸くのです。ついでに発電機をつけただけなのです。本当にやりたいのはプルトニウム製造なのです。

私がこの話をする、「プルトニウムが足りないから作っているのですか？」と聞く人がいます。しかし今、プルトニウムは佃煮にするほど余っています(笑い)。プルトニウムを作り続けることが大事なのです。止まって丸裸になって、核開発が行き詰ることが困るのです。利権構造を維持しながら、核保有国として権力を維持していくことが狙いなのです。そのカモフラージュとして原発がほしいのです。核武装以外は核燃料サイクルを維持する意味はないのです。

## 元々は『爐』という漢字

「核」という言葉は否定的に使います。だから北朝鮮を槍玉に挙げるときは「核開発」になります。でも日本政府がその百倍もタチの悪いことを行うときは「原子力開発」にします。「装置」「器」という名では受けが悪いので、商品名の最後に何を付けるかはペテン師たちが知力を駆使して頑張るところなので、それで「原子炉」となったのです。

でもそれは元々『爐』という漢字なのです。これは日本の言葉と生活文化が作られたあの煮炊きの現場を示し、さらに近代経済の中心産業としての製鉄の現場からきている本物の言葉です。実はこの言葉をつけただけで絶対うまくいくとペテン師たちは考えたのです。四〇〜五〇年代にかけての言論空間の中で『爐』を否定できる人は一人もいないと知っているから、原子「炉」としたのです。でもジリジリとプルトニウムを作るペテン装置は、『爐』ではありません。でもこれが広まってしまえば、向こうの勝ちとなってしまう。私たちが「原子炉」と呼んでいること自体が、バカなのです。原子力の話をする時にエネルギー問題として語ることは誤りなのです。エネルギーは後からくっつけた誤魔化しなのです。「原子炉」という言葉を使っていたら核廃絶はできないのです。

## 言葉を取り返すことから始まる

ではどうするか。それは言葉を取り返すことから始まるのです。日本語はどんどん蝕まれて劣化してありますが、素晴らしい未発見の非常口もたくさんあり、自分たちの味方に切り返す力があるのです。最後に、原子力の話をして終わります。弘前市に

「原子力電気」という有限会社があります。隣人に「原子力電気ってスゴイですね」と聞いたたら、「あれはハラコツトムって読むんですけどね」とのことでした(笑)。日本語は我々の味方にもなるのです。「ピカドン」という言葉を作った人たちが乗り越えていったことを考えると、現代の私たちができなことはまだまだあると思うのです(大きな拍手)。

(終・文責は編集部)

## 松江市教育委員会

### 「はだしのゲン」閲覧制限を撤回

#### 石川の各団体からも抗議文

松江市教育委員会は八月二六日に開いた臨時会議で、昨年一二月に小中学校校長会にて漫画『はだしのゲン』の閲覧制限を要請したことは、「手続きに不備がある」として要請を撤回することを決定しました。

松江市教委の閲覧制限が報道された八月一七日から一〇日間、全国各地から市教委に一〇〇〇件を超える抗議と閲覧制限の撤回をもとめる声が殺到し、石川県からも非核の政府を求め石川の会、核戦争を防止する石川医師の会、NPO法人はだしのゲンをひろめる会、治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟石川県本部が閲覧制限の撤回をもとめる要請書を送付しました。

日本図書館協会の「図書館の自由委員会」は、子どもたちの自主的な読書活動を尊重する観点から閲覧措置の再考をもとめる要望書を送付しました。

日本原水爆被害者団体協議会(日本被団協)は、『はだしのゲン』は国の内外で原爆を知る本、必読の本として高く評価されている。閲覧制限しなければならぬ理由はない」とすみやかな撤回をもとめる要請書を送付しました。

◇ ◇ ◇

NPO法人はだしのゲンをひろめる会(浅妻南海江理事長)の抗議文を紹介します。

## 松江市教育委員会への抗議文

『はだしのゲン』全十巻を所有する御市の小中学校三九校すべてが貴教育委員会の指示に従って閉架措置をとったとの報道を誠に残念に思います。三九人もの小中学校の校長すべてが貴教育委員会の指示に従ったことが奇異に感じられます。異議を唱える校長は誰一人おられなかったのでしょうか。

『はだしのゲン』は少年ジャンプに掲載されて今年六月で四〇年になりました。

現場教師の尽力により多くの学校の図書館に置かれることとなって以来、ゲンは生徒に自分の体験を語り、戦争の愚かさや平和の大切さを語り続けてきたことでしょう。

生徒たちはゲンから原爆の恐ろしさだけではなく肉親を思う心、他人を思いやる心を学ぶと共に、どんなに苦しい状況の中にあってもユーモアを忘れず、麦のごとく強く生き抜くゲンに共感したことでしょう。教育の現場で彼は大任を果たしているのです。

人類が再びヒロシマ、ナガサキの悲劇を繰り返さないためには、唯一の被爆国の国民として私たち親

や教師は子どもたちに核被害の実相を伝えなければなりません。『はだしのゲン』はその役目を担うにふさわしい作品であります。『はだしのゲン』は子どもに人気のある本ではありますが、同時に大人が子どもたちに読ませべき本だと思えます。

絵の残忍な箇所を問題視されていますが、作者中沢啓治氏は「戦争や原爆を甘い糖衣錠で包んで子供に見せれば『戦争と原爆はこんなものか』と甘く考えてなめてしまう」ことを懸念していました。「それでも随分表現を和らげた」とも語っていました。読む、読まないは生徒の自由です。しかしヒロシマの実相を伝えるこの優れた作品を生徒が自由に読めるように環境づくりをするのは唯一の被爆国の教育者が担うべき役割ではないのでしょうか。御市小中学校の図書館から『はだしのゲン』を締め出さないで下さい。今一度閉架措置に対して再考をお願いするものであります。

二〇一三年八月二一日

NPO法人はだしのゲンをひろめる会

理事長 浅妻南海江

## 非核石川の会 リレーエッセイ

### 中学生に聞いてみた

北野 昭

漫画「はだしのゲン」が暑い夏を熱くした。松江市教育委員会が学校図書館での閲覧制限の要請を撤回すると表明して一件落着のようだが、ちょうど前日、中学生に意見を聞く機会があった。

「それは教育委員会が言うことですか。そんなの

いちいちやっていたら、子どもの読める本が少なくなっていくんじゃないかと思って怖いです。」

「事実の描写を、子どもにふさわしくないと行って閲覧制限するのはおかしいと思う。嫌なものから目をそむけていると、何が事実かわからなくなるのではないか。」

「日本人である以上、原爆の恐ろしさや日本人が戦争中やったことのせい惨さは知っておくべきだと思う。」

「『はだしのゲン』は忘れてはいけない戦争の話なので、私は多くの子どもが読み、当時のことを知るべきだと思う。」

普段はアイドルの話題で盛り上がっている子らだが、おかしなことには「倍返しだ！」と言わんばかりの力強い言葉に驚き、また感心した。

同僚に子どもたちの意見について感想を聞いた。

「みんな、いろいろと言うようになってきたわねえ。以前は自分の意見を言うどころか、疲れた、休みたいということもなかなか言えなかったのに……すごい！」

平和も子どもたちの姿も、「歴史」を知ることによっていつそう輝いて見えるのだと思う。

### 核廃絶運動の発展を願って

倉元浩信

◆ビキニ環礁での核実験と日本人の死因構造の変化を考える

蒔昭三先生は、「八一年からガンが死因順位の一位になった」ことを明らかにし、死因構造の変化について述べている（『医療学概論』P82-86）。斉藤

貴男さんは、「日本国民の死亡原因が八一年頃から癌であり続けている現実」は、五四年三月からはじまったビキニ環礁などでの水爆実験と「無関係」ではないと述べている（『東京電力研究』P79-81）。蒔先生に聞くと「そのいうことは充分考えられる」ということで、何冊もの本を読んだ。山下正寿著「核の海の証言」が最も良かった。

この本は、著者が「幡多高校生ゼミナールの生徒たちと八五年から三〇年近く地道に取り組んでいるビキニ水爆実験の被災船員（延べ一〇〇〇隻の漁船の船員）の聞き取り調査、当時の資料・証言、二〇一〇年に発見された「キャッスル作戦」に関するアメリカの公文書、日米外交「極秘」文書などを重層的に分析し、ビキニ事件の全容解明に挑んだものである。野口邦和さんは「何故日本に放射能の雨が大量に降ったのか」（同P126）、高橋博子さんは「被ばくマグロが市場に出回り、再び潜在的被ばく者が生み出されていったこと」（同P181）を明らかにし、斉藤貴男さんの指摘の正しさを証明している。同時に「ビキニ事件」を契機に今日に連なる国民的な原水禁運動が起こり、原発導入の策動が進行している。

◆日本の原水禁運動と国連、そして憲法九条

◇志位和夫さんは、憲法九条一項には国連憲章の不戦の決意が書き込まれ、二項については広島、長崎を繰り返すための強い決意が込められていることを四六年当時の内閣が発行した『新憲法の解説』を引用して明らかにしている。そして憲法第九条のもつ大きな世界的な意義を強調している（『綱領教室』三巻P99-101）。

◇澤地久枝さんは、戦争敗北の契機になった「ミッ

ドウェイ海戦」全戦死者（日本三〇五七名、アメリカ三六二名）を四年越しに調査と取材の結果、第二次大戦後、日本では戦死例はなく、アメリカでは複数の事例があった。「ひとつの例であるが『戦後の日本の普遍的な姿をあらわしている』と述べている（雑誌「世界八月号）。憲法九条を守り、生かすための調査と探求が多様な形で進んでいる。

◇国連と原水協（民医連）との共同は、激しくも厳しいやりとりの中から始まった。当時の状況を全日本民医連の『無差別平等の医療をめざして』は以下のように述べている。

七五年四月、国連に治療困難な被爆者医療に関する国連シンポジウムの開催を求めて、民医連の医師達は、同年一二月、要請文をワルトハイム事務総長に提出した。しかし事務総長は「現在、原爆被爆による病人は一人もいない」とし、この要請の受け取りを拒否し退席した。民医連の代表団は引き続き、国連に抗議と交渉を続けた結果、NGO主催の国際シンポジウムが七七年に日本で開催された。シンポジウムにより、それまで小さな被害として報告されていた広島、長崎の被爆被害の実相について、原爆被害による死者数は四五年末まで両市で二〇万人以上と、実態に最も近い数字に改められた（同上巻 P323-4）。

◇石川でも七七年「石川県シンポジウム」が開催され、清水巍医師が県内被爆者八八名の精密検査の結果を「被爆者の医療問題」として報告している。◇今年の原水禁世界大会は潘基文国連事務総長からメッセージが寄せられるなど国連と日本の原水禁運動との連帯・共同がいつそう進んできている。

憲法九条を中心に原水協、被団協、国連との共同と連帯の歴史的な発展と深化をみる。

**詩人会議かなざわ「独標」より**

**辛抱と我慢の春**

土井和子

老木を離れた桜の花びらがはらはらと  
風に流され庭の石に止まり  
不安そうに震えている

姉が生きることのなかった六十四歳を  
私は辛うじて生き抜いたけれど  
四ヶ月以上も寝たきりだった  
嵐の後に花びらを失った  
桜の老木のように  
津波ですべてを流され  
海の遠くを唾然と見つめる  
老人のように ただ生きていた  
今だ治らない傷の深さの中で  
心地よく響く言葉や歌は喉元を  
するりと通り過ぎたが

空しさだけが澱となって心に残った  
私はまた一つ年を重ねる  
年金を受け取るための新しい申請  
障害者自立支援から  
介護保険への移行手続き  
医療保険も後期高齢者へ移行

何がなんだか分からない手続きに

急かされて老いは保障されても

暮らしは保障されない

新しい仕組みの中で私は老いを生きる

花を失った老木は辛抱と我慢の狭間で

喪失感に苛まれながら

じつとその場所で老いと闘っている

**和定例会報より**

宿題「知らん顔」

岩原茂明 選

佳作

村山談話握り潰して知らぬ顔

啓

国民を毒矢で射るも知らん顔

林

自己責任減すだけの匙加減

大峰

鮮人を拉致虐殺には触れず

一杜

知らぬ顔出来ない高度の汚染水

一杜

赤紙が届いて慌てる改憲派

啓

米軍の辺にこそ死なめと軍鶏ほざく

一杜

秀作

原爆禍知らぬ振りして再稼働

大峰

汚染水海に流して知らん顔

林

軸

ひきょうにも外国に住む東電幹部

### 《非核平和・行事予定》

- ・九月二五日(水)二時：石川県宗平協総会・記念講演 前田達男金沢大学名誉教授・津幡町俱利伽羅不動寺
- ・九月二六日(木)一八時半：「NPT再検討会議に代表を送る」準備会・石川勤医協会館四階会議室・呼びかけ石川県原水協
- ・九月二六日(木)一八時半：いしかわ自治体問題研究所例会「アベノミクス成長戦略と雇用制度改革批判」 伍賀一道金沢大学名誉教授・近江町交流プラザ四階
- ・九月二七日(金)一八時半：非核の政府を求める石川の会主催・原発に関する学習会「福島原発事故と放射線の健康被害を考える」児玉一八／核・エネルギー問題情報センター理事・非核石川の会世話人・学習会後世話人会・近江町交流プラザ四階研修室
- ・九月二八日(土)一四時：県民が主人公の県政実現をめざす県民集会・記念講演石川康宏神戸女学院大学教授・憲法が輝く兵庫県政をつくる会代表幹事・労済会館ホール・主催新しい県政をつくる県民の会
- ・九月二九日(日)一〇時半～一六時半：九条の会北陸ブロック三県交流会・記念講演小澤隆一東京慈恵医大教授／九条の会事務局・金沢勤労者プラザ
- ・一〇月五日(土)一三時：むぎわらぼうし例会「西藤康広氏の被爆証言を聞く会」・加賀市「平和工房・江沼の郷」
- ・一〇月六日(日)一七時：署名69行動・金沢駅前
- ・一〇月九日(水)一二時半：署名69行動・Mザ前
- ・一〇月二〇日(日)：平和の旅・山中温泉海軍病院地下壕など加賀方面へ・石川県平和委員会
- ・一〇月二六日(土)一五時：勅昭三業績集出版記念講演

会・祝賀会・金沢スカイホテル

・十一月二日(土)一四時：輝け九条！石川県民集会・記念講演「憲法九条と集団的自衛権」講師五十嵐正博

・十一月九日(土)一三時半：「原発再稼働反対・志賀原発廃炉・福島被災者支援県民大集会」・志賀町文化ホール・主催実行委員会

・十一月二〇日(日)一〇時～一六時：第八回社会保障学校・記念講演二宮厚美神戸大学名誉教授・石川県社会福祉会館四階・主催実行委員会

・十一月六日(水)一二時半：署名69行動・Mザ前

・十一月五日(金)～一七日(日)：二〇一三年日本平和大会 岩国

### 絵手紙コーナー

金沢医療生協絵手紙班

家 正子



原発のゆくえを憂い、安全と平和を石仏にねがう

### 《編集室より》

◎今年の原水爆禁止国民平和大行進に海外から初めて「全国通し行進者」として参加したマラヤ・フアブロスさん（非核フリッピン連合）の原水爆禁止二〇一三年世界大会・国際会議での発言を紹介します。

「平和行進は、市民と自治体が平和を推進するための対話をする良い場となっていることがわかりました。自治体の職員に歓迎され一緒に歩くことができたのはすばらしいことでした。また、首長にたいし、核兵器に反対する呼びかけを市民に知らせる活動をさらに強めるよう平和行進者から申し入れる場にもなっていました。平和行進は、集団的な参加と会話を促すとても上手な方法です。」

今年初めて「県内通し行進」に挑戦し、世界大会の熱気を体感してきたものとして、まったく同感です。来年以降も「県内通し行進」を続けていく決意を固めました。(か)

\* \* \*

◎ツバメの時(ねぐら)入りを観察する探鳥会があり河北潟へ。月が昇り始め夕闇が濃くなってきた頃、万を超すツバメが上空に湧くように舞い集まった後、目の前の葦原に次々と飛び込むように入っていた。「次々に湧き舞い入る」を繰り返してしよーは終わった。万を超すツバメの時入りは圧巻。一度時入りをお楽しみください。(平)